

# 官報

号  
国会会議録

令和七年十月二十四日

## ○第二百十九回国 参議院会議録第二号(その一)

令和七年十月二十四日(金曜日)

### 開 会 式

午後零時五十八分 参議院議長、衆議院参議院の副議長、常任委員長、特別委員長、参議院の調査会長、衆議院参議院の憲法審査会会長、情報監視審査会会長、政治倫理審査会会長、議員、内閣総理大臣その他の国務大臣、最高裁判所長官及び会計検査院長は、式場に入り、所定の位置に着いた。

午後一時 天皇陛下は、衆議院議長の前行で式場に入られ、お席に着かれた。

#### 〔一同敬礼〕

午後一時一分 衆議院議長額賀福志郎君は、式場の中央に進み、次の式辞を述べた。

#### 式 辞

天皇陛下の御臨席を仰ぎ、第二百十九回国会の開会式を行うに当たり、衆議院及び参議院を代表して、式辞を申し述べます。

今日、我が国をめぐる内外の諸情勢はまことに厳しく、早急に対処すべき幾多の重要課題があります。

我々は、この現状を深く認識し、速やかに充実した審議を行い、適切な施策を講じて、国民生活の安定向上に万全を期するとともに、世界の平和と繁栄の実現に一層大きな役割を果たしていかなければなりません。

ここに、開会式に当たり、我々に課せられた重大な使命に鑑み、日本国憲法の精神を体し、各々最善を尽くしてその任務を遂行し、もって国民の信託に応えようとするものであります。次いで、天皇陛下から次のおことばを賜った。

#### おことば

本日、第二百十九回国会の開会式に臨み、全国民を代表する皆さんと一堂に会することは、私の深く喜びとするところであります。

ここに、国会が、国権の最高機関として、当面する内外の諸問題に対処するに当たり、その使命を十分に果たし、国民の信託に応えることを切に希望します。

#### 〔一同敬礼〕

衆議院議長は、おことば書をお受けした。

午後一時五分 天皇陛下は、参議院議長の前行で式場を出られた。

次いで、一同は式場を出た。

午後一時六分式を終わる



# 官報

号  
国会会議録

令和七年十月二十四日

## ○第二百十九回 参議院会議録第二号(その二)

令和七年十月二十四日(金曜日)

午後三時一分開議

○議事日程 第二号

令和七年十月二十四日

午後三時開議

- 第一 常任委員長の選挙  
第二 国務大臣の演説に関する件

○本日の会議に付した案件

議事日程のとおり

○議長(関口昌一君) これより会議を開きます。

日程第一 常任委員長の選挙

これより欠員中の議院運営委員長選挙を行います。

つきましては、本選挙は、その手続を省略し、議長において指名することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(関口昌一君) 御異議ないと認めます。

よって、議長は、議院運営委員長に青木一彦君を指名いたします。

(拍手)

○議長(関口昌一君) 日程第二 国務大臣の演説に関する件

内閣総理大臣から所信について発言を求められております。これより発言を許します。高市早苗内閣総理大臣。

(内閣総理大臣高市早苗君登壇、拍手)

○内閣総理大臣(高市早苗君) 私は、日本と日本人の底力を信じてやまない者として、日本の未来を切り拓く責任を担い、この場に立つております。

今の暮らしや未来への不安を希望に変え、強い経済を作る。そして、日本列島を強く豊かにしていく。世界が直面する課題に向き合い、世界の真ん中で咲き誇る日本外交を取り戻す。絶対にあきらめない決意をもって、国家国民のため、果敢に働いてまいります。

政治の安定なくして、力強い経済政策も、力強い外交・安全保障政策も、推進していくことはできない。この思いを胸に、日本再起を目指す広範な政策合意の下、自由民主党、日本維新の会による連立政権を樹立いたしました。

さらに、国家国民のため、政治を安定させる。政権の基本方針と矛盾しない限り、各党からの政策提案を受けし、柔軟に真摯に議論してまいります。国民の皆様への信頼を回復するための改革にも全力で取り組んでまいります。それが国家国民のためであるならば、決してあきらめない。これが、この内閣の不動の方針です。

何を実行するにしても、強い経済をつくることに必要です。そのための経済財政政策の基本方針を申し述べます。

この内閣では、経済あつての財政の考え方を基本とします。強い経済を構築するため、責任ある積極財政の考え方の下、戦略的に財政出動を行います。これにより、所得を増やし、消費マインドを改善し、事業収益が上がり、税率を上げずとも税収を増加させることを目指します。この好循環を実現することによって、国民の皆様が景気回復の果実を実感していただき、不安を希望に変えていきます。

こうした道筋を通じ、成長率の範囲内に債務残高の伸び率を抑え、政府債務残高の対GDP比を引き下げていくことで、財政の持続可能性を実現し、マーケットからの信頼を確保していきます。

この内閣が最優先で取り組むことは、国民の皆様が直面している物価高への対応です。暮らしの安心を確実に迅速に届けてまいります。

物価上昇を上回る賃上げが必要ですが、それを事業者が丸投げしてしまつては、事業者の経営が苦しくなるだけです。継続的に賃上げができる環境を整えることが、政府の役割です。

しかし、実質賃金の継続的上昇が定着するまでには、一定の時間を要します。また、米国の関税措置の影響を受ける事業者への対応、経営難が深刻化する医療機関や介護施設への支援なども、急を要します。

既に、経済対策の策定に着手するよう指示を行いました。野党の皆様との真摯な対話と合意を積み重ねながら、速やかに対策を取りまとめ、必要な補正予算を国会に提出いたします。国民の皆様の暮らしを守る経済対策・補正予算となるよう、与野党で知恵を結集しましょう。

自由民主党がこの夏の参議院議員選挙で公約として掲げた給付金については、国民の皆様への御理解が得られなかったことから、実施しません。むしろ、物価高に関する国民の皆様への御懸念一つ一つに、丁寧に対策をとってまいります。

まず、いわゆるガソリン税の暫定税率については、各党間の議論を踏まえ、今国会での廃止法案の成立を期します。軽油引取税の暫定税率も、早期の廃止を目指します。これらの廃止に伴い必要となる国及び地方自治体の安定財源を確保しつつ、廃止までの間も、補助金を活用することで、価格引下げに対応します。

国民の皆様へのいのちを守り、安心して必要なサービスを受けていただくためにも、赤字に苦しむ医療機関や介護施設への対応は待たないです。診療報酬・介護報酬については、賃上げ・物価高を適切に反映させていきますが、報酬改定の時期を待たず、経営の改善及び従業者の処遇改善につながる補助金を措置して、効果を前倒しします。

加えて、国・地方自治体から民間への請負契約単価を、物価上昇等を踏まえて適切に見直しします。コスト高から中小企業・小規模事業者を守ります。生産性向上支援、事業承継やM&Aの環境整備、更なる取引適正化等を通じ、賃上げと設備投資を強力に後押しします。

自治体向けの重点支援地方交付金を拡充します。物価高の影響を受ける生活者や、賃上げ税制を活用できない中小企業・小規模事業者、さらには、農林水産業などを支援する推奨メニューを設け、地域の実状に合った的確な支援を速やかにお届けいたします。あわせて、寒さが厳しい冬の間の電気・ガス料金の支援も行います。

いわゆる百三万円の壁については、これまでの政党間の協議を踏まえ、今年の年末調整では百六十万円まで対応することといたしますが、基礎控

除を物価に連動した形で更に引き上げる税制措置について、真摯に議論を進めます。

いわゆる高校の無償化・給食の無償化についても、これまで党派を超えて積み重ねてきた議論を踏まえ、制度設計の議論を進め、安定財源の確保とあわせて来年四月から実施します。この機会に、財政支援にとどまらず、日本の高校教育の在り方についても見直しを進めます。

そして、税・社会保険料負担で苦しむ中・低所得者の負担を軽減し、所得に応じて手取りが増えるようにしなければなりません。早期に給付付き税額控除の制度設計に着手します。

米国の関税措置に対しては、中小企業向けの資金繰り支援等、事業者の状況やニーズに応じた支援メニューを用意し、影響の緩和に万全を期します。

中長期的には、日本経済のバイを大きくしていくことが重要です。我が国の課題を解決することに資する先端技術を開花させることで、日本経済の強い成長の実現を目指します。そのために、日本成長戦略会議を立ち上げます。

この内閣における成長戦略の肝は、危機管理投資です。経済安全保障、食料安全保障、エネルギー安全保障、健康医療安全保障、国土強靱化対策などの様々なリスクや社会課題に対し、官民が手を携え先手を打って行う戦略的な投資です。世界共通の課題解決に資する製品・サービス・インフラを提供できれば、更なる日本の成長につながります。未来への不安を希望に変え、経済の新たな成長を切り拓きます。

AI・半導体、造船、量子、バイオ、航空・宇宙、サイバーセキュリティ等の戦略分野に対して、大胆な投資促進、国際展開支援、人材育成、スタートアップ振興、研究開発、産学連携、国際標準化といった多角的な観点からの総合支援策を講ずることで、官民の積極投資を引き出します。世界で最もAIを開発・活用しやすい国を目指

して、データ連携等を通じ、AIをはじめとする新しいデジタル技術の研究開発及び産業化を加速させます。加えて、コンテンツ産業を含めたデジタル関連産業の海外展開を支援します。

坂口志文さん、北川進さんのノーベル賞受賞をお祝い申し上げます。強い経済の基盤となるのは、優れた科学技術力であり、イノベーションを興すことのできる人材です。公教育の強化や大学改革を進めるとともに、科学技術・人材育成に資する戦略的支援を行い、新技術立国を目指します。

そして、成長戦略を加速させるためには、金融の力が必要です。資産運用立国に向けた貯蓄から投資への取組の成果に基づき、金融を通じ、日本経済と地方経済の潜在力を解き放つための戦略を策定し、官民連携で取り組んでいきます。

こうして日本の供給構造を強化し、世界の投資家が信頼を寄せ経済を実現することで、世界の資本が流れ込む好循環を生み出します。

地域を活性化させ、食料安全保障を確保する観点から、農林水産業の振興が重要です。農業については、五年間の農業構造転換集中対策期間において別枠予算を確保します。世界トップレベルの植物工場、陸上養殖、衛星情報、AI解析、センサーなどの先端技術も活用し、輸出を促進し、稼げる農林水産業を創り出します。

国民生活及び国内産業を持続させ、更に立地競争力を強化していくために、エネルギーの安定的で安価な供給が不可欠です。特に、原子力やペロブスカイト太陽電池をはじめとする国産エネルギーは重要です。GX予算を用いながら、地域の理解や環境への配慮を前提に、脱炭素電源を最大限活用するとともに、光電融合技術等による徹底した省エネや燃料転換を進めます。また、次世代革新炉やフュージョンエネルギーの早期の社会実装を目指します。

こうした施策を直ちに具体化させてまいりま

す。我が国の総力を挙げて、強い経済を実現していくようではありませんか。

日本は世界有数の災害大国です。南海トラフ地震、首都直下地震等の巨大災害に対する事前防災、そして発生してしまった災害の応急対策、復旧・復興は、国として対応すべき最優先課題です。

防災体制の抜本的強化を図るべく、来年度の防災庁の設立に向け、準備を加速します。あわせて、国・自治体によるシミュレーションによりリスクを総点検し、デジタル技術や衛星情報、電磁波、ドローン等も活用しながら、防災インフラ、老朽化したインフラの整備・保全をはじめ、ハード・ソフトの両面で、事前防災・予防保全を徹底します。

自然災害の頻発化・激甚化に対し、予測技術の向上等を踏まえ、洪水の特別警報や高潮の共同予報・警報を新たに実施する制度改正を行います。首都の危機管理機能のバックアップ体制を構築し、首都機能分散及び多極分散型経済圏を形成する観点から、首都及び副首都の責務と機能に関する検討を急ぎます。

福島復興なくして、東北の復興なし。東北の復興なくして、日本の再生なし。被災者の皆様の生活や産業・生業の再建、福島イノベーション・コースト構想の推進等に取り組みます。

能登半島地震からもうすぐ二年。そして、復興中の奥能登を襲った豪雨から一年が経ちました。能登の賑わいと笑顔を一日も早く取り戻すため、インフラの復旧を急ぐとともに、被災者の皆様の生活支援や生業再建、伝統産業の復興も進めます。

国民の皆様いのちと健康を守ることは、重要な安全保障です。

人口減少・少子高齢化を乗り切るためには、社会保障制度における給付と負担の在り方について、国民的議論が必要です。超党派かつ有識者も

交えた国民会議を設置し、給付付き税額控除の制度設計を含めた税と社会保障の一体改革について議論してまいります。野党の皆様にも御参加いただき、共に議論を進めてまいりましょう。

これまでの政党間合意も踏まえ、OTC類似薬を含む薬剤自己負担の見直しや、電子カルテを含む医療機関の電子化、データヘルス等を通じた効率的で質の高い医療の実現等について、迅速に検討を進めます。

高齢化に対応した医療体制の再構築も必要です。入院だけではなく、外来・在宅医療や介護との連携を含む新しい地域医療構想を策定するとともに、地域での協議を促します。加えて、医師の偏在是正に向けた総合的な対策を講じます。あわせて、新たな地域医療構想に向けた病床の適正化を進めます。

こうした社会保障制度改革を進めていく中で、現役世代の保険料負担を抑えます。当面の対応が急がれるテーマについては、早急に議論を進めます。

また、攻めの予防医療を徹底し、健康寿命の延伸を図り、皆が元気に活躍し、社会保障の担い手となっていくように取り組みます。特に、性差に由来した健康課題への対応を加速します。私は長年、女性の生涯にわたる健康の課題に取り組んでまいりましたが、昨年、女性の健康総合センターが設立されました。本センターを司令塔に、女性特有の疾患について、診療拠点の整備や研究、人材育成等に取り組むなど、その成果を全国に広げてまいります。

「事を論ずるには、当に己れの地、己れの身より見を起すべし、乃ち着実と為す」。

吉田松陰先生の言葉のとおり、地方の活力は、すなわち日本の活力であることを、身をもって知っております。地方が持つ伸び代を活かし、そこに暮らす住民の皆様の暮らしと安全を守ってまいります。



国による一歩前に出た支援の結果、T S M Cが進出した熊本県、ラピダスが立地した北海道では、関連する投資が誘発され、様々な経済効果が現れ始めています。こうした事例を、全国各地に次々と生み出していくのではありませんか。

地域を超えたビジネス展開を図る中堅企業を支援し、大胆な投資促進策とインフラ整備を一体的に講ずることで、地方に大規模な投資を呼び込み、地域ごとに産業クラスターを戦略的に形成していくことで、地域未来戦略を推進します。

テクノロジや地域資源を活用した付加価値の創出・地域外へのビジネス展開支援、二地域居住を含む関係人口創出、稼げる農林水産業の創出等を通じて、農山漁村・中山間地域をはじめ地方に活力を取り戻します。

また、若者や女性も含めて、地方に住み続けられるようにします。そのためには、質の高い教育をはじめ、必要な行政サービスを受けられるようにする必要があります。税源の偏在性が小さく税収が安定的な地方税体系の構築に向けて取り組みます。

日本の最大の問題は人口減少であるとの認識に立ち、子供・子育て政策を含む人口減少対策を検討していく体制を構築します。

人口減少に伴う人手不足の状況において、外国人材を必要とする分野があることは事実です。インバウンド観光も重要です。

しかし、一部の外国人による違法行為やルールからの逸脱に対し、国民の皆様が不安や不公平を感じる状況が生じていることも、また事実です。

排外主義とは一線を画しますが、こうした行為には、政府として毅然と対応します。政府の司令塔機能を強化し、既存のルールの遵守を求めるとともに、土地取得等のルールの在り方についても検討を進めてまいります。そのため、新たに担当大臣を置きました。

インターネットを悪用した新たな犯罪行為等にも、法規制の強化をはじめとして、厳正に対応し

ていきます。

国民を詐欺から守るための総合対策二・〇に掲げられた取組を着実に実施するとともに、法制度を含めた必要な検討を加速し、いわゆるトクリュウの撲滅を目指します。

新たな技術を悪用したストーカー行為等や配偶者からの暴力の被害を防止するため、法規制を強化します。

規制の強化に加え、法制度の時代に即した見直しも進めてまいります。再犯防止のために重要な保護司について、安全確保策の充実を図るなど、制度の持続可能性を高めるための措置を講じます。また、確定した刑事裁判をやり直す再審制度の見直しについて検討を進めます。

我々が慣れ親しんだ自由で開かれた安定的な国際秩序は、パワーバランスの歴史的变化と地政学的競争の激化に伴い、大きく揺らいでいます。

同時に、我が国周辺では、いずれも隣国である、中国、北朝鮮、ロシアの軍事的動向等が深刻な懸念となっています。

こうした国際情勢の下、世界の真ん中で咲き誇る日本外交を取り戻します。

日米同盟は日本の外交・安全保障政策の基軸です。日米両国が直面する課題に対し、しっかりと連携し、日米同盟の抑止力・対処力を高めていきます。私自身、トランプ大統領が訪日される機会にお会いし、首脳同士の信頼関係を構築しつつ、日米関係を更なる高みに引き上げてまいります。

また、日米同盟を基軸とし、日米韓、日米フィリピン、日米豪印等の多角的な安全保障協議も深めてまいります。

在日米軍の円滑な駐留のためには、地元を含む国民の皆様様の御理解と御協力を得ることが不可欠です。沖縄県を含む基地負担軽減に引き続き取り組みます。普天間飛行場の一日も早い全面返還を目指し、辺野古への移設工事を進めます。また、強い沖縄経済を作ります。

自由で開かれたインド太平洋を、外交の柱とし

て引き続き力強く推進し、時代に合わせて進化させていくとともに、そのビジョンの下で、基本的価値を共有する同盟国やグローバルサウス諸国との連携強化に取り組みます。

いわゆるCPTPPについて、戦略的観点から、締約国の拡大に努めます。

重要な隣国である韓国とは、首脳間の対話を通じて、関係強化を図りたいと考えます。

A S E A N諸国との今後の更なる関係強化も進めていきます。

中国は、日本にとって重要な隣国であり、建設的かつ安定的な関係を構築していく必要があります。他方、日中間には、経済安全保障を含む安全保障上の懸念事項が存在することも事実です。日中首脳同士で率直に対話を重ね、戦略的互惠関係を包括的に推進していきます。

北朝鮮による核・ミサイル開発は断じて容認できません。また、被害者や御家族が御高齢となる中で、拉致問題はこの内閣の最重要課題です。全ての拉致被害者の一日も早い御帰国を実現するために、あらゆる手段を尽くして取り組んでまいります。

ロシアによるウクライナ侵略について、力による一方的な現状変更の試みを許してはなりません。日露関係は厳しい状況にありますが、日本政府の方針は、領土問題を解決し、平和条約を締結することです。

二〇二二年十二月の国家安全保障戦略をはじめとする三文書の策定以降、新しい戦い方の顕在化など、様々な安全保障環境の変化も見られます。我が国として主体的に防衛力の抜本的強化を進めることが必要です。このため、国家安全保障戦略に定める対GDP比二％水準について、補正予算と合わせて、今年度中に前倒しして措置を講じます。また、来年中に三文書を改定することを目指し、検討を開始します。

防衛力そのものである防衛生産基盤・技術基盤の強化、防衛力の中核である自衛官の処遇改善に

も努めます。

憲法改正について、私が総理として在任している間に国会による発議を実現していただくため、憲法審査会における党派を超えた建設的な議論が加速するとともに、国民の皆様の間で積極的な議論が深まっていくことを期待します。

また、安定的な皇位継承等の在り方に関する各党各会派の議論が深まり、皇室典範の改正につながることを期待しています。

今年は昭和百年、来年は昭和百周年に当たります。昭和は、戦争、終戦、復興、高度経済成長といった、未曾有の変革を経験した時代です。記念式典等の関連施策を通じ、この機会を国家的な節目と捉え、先人の叡智と努力に学ぶとともに、平和の誓いを継承し、国際社会の安定と繁栄への貢献につなげる機会としたいと思います。

以上、ここに述べました所信に則り、必ずや、日本列島を強く豊かに、日本を再び世界の高みに押し上げてまいります。

「事独り断む可からず。必ず衆と与に宜しく論ふ可し」。

古来より、我が国においては衆議が重視されてきました。政治とは、独断ではなく、共に語り、共に悩み、共に決める営みです。私は、国家国民のため、各党の皆様と真摯に向き合い、未来を築いてまいります。

どうか皆様、共に日本の新たな一歩を踏み出しましょう。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

○議長(関口昌一君) ただいまの演説に対する質疑は次会に譲りたいと存じますが、御異議ございませんか。

〔異議なし〕と呼ぶ者あり

○議長(関口昌一君) 御異議ないと認めます。

本日はこれにて散会いたします。

午後三時三十一分散会

出席者は左のとおり。

議長		副議長		議員	
関口 昌一君	福山 哲郎君	中田 優子君	平戸 航太君	後藤 翔太君	安達 悠司君
		宮出 千慧君	櫻井 祥子君	小林さやか君	塩入 清香君
				杉本 純子君	竹詰 仁君
				大津 力君	堂込麻紀子君
				岩本 麻奈君	浜口 誠君
				安藤 裕君	磯崎 哲史君
				上田 清司君	白川 容子君
				岩渕 友君	牛田 茉友君
				山添 拓君	原田 秀一君
				山田 吉彦君	仁比 聡平君
				田村 まみ君	小池 晃君
				足立 康史君	伊藤 孝江君
				浜野 喜史君	里見 隆治君
				舟山 康江君	川合 孝典君
				上田 勇君	秋野 公造君
				平木 大作君	谷合 正明君
				川村 雄大君	

佐々木雅文君	山本 啓介君	神谷 政幸君	原田大二郎君	若井 敦子君	古庄 玄知君
				宮崎 勝君	加藤 明良君
				宮本 周司君	山田 宏君
				滝波 宏文君	北村 経夫君
				堀井 巖君	山下 雄平君
				松村 祥史君	高橋 克法君
				佐藤 啓君	宮沢 洋一君
				小野田紀美君	片山さつき君
				安野 貴博君	平山佐知子君
				梶原 大介君	高橋はるみ君
				星 北斗君	吉井 章君
				赤松 健君	本田 颯子君
				朝日健太郎君	今井絵理子君
				石田 昌宏君	藤川 政人君
				江島 潔君	青木 一彦君
				石井 浩郎君	

永井 学君	司 隆史君	友納 理緒君	宮本 和宏君	窪田 哲也君	長谷川英晴君
				小林 一大君	生稲 晃子君
				阿達 雅志君	井上 義行君
				上月 良祐君	三原じゅん子君
				舞立 昇治君	青山 繁晴君
				古賀友一郎君	酒井 庸行君
				野上浩太郎君	野村 哲郎君
				牧野たかお君	尾辻 朋実君
				ながえ孝子君	寺田 静君
				越智 俊之君	東野 秀樹君
				出川 桃子君	山本佐知子君
				齊藤健一郎君	白井 正一君
				加田 裕之君	進藤金日子君
				こやり隆史君	馬場 成志君
				長谷川 岳君	渡辺 猛之君
				磯崎 仁彦君	中西 祐介君

山本 順三君	石井 準一君	末松 信介君	北村 晴男君	望月 良男君	清水 真人君
				脇 雅昭君	小林孝一郎君
				いんどう周作君	見坂 茂範君
				岩本 剛人君	船橋 利実君
				自見はなこ君	松川 るい君
				大家 敏志君	森 まさこ君
				猪口 邦子君	福岡 資麿君
				西田 昌司君	有村 治子君
				鈴木 宗男君	山崎 正昭君
				山内佳菜子君	郡山りょう君
				伊勢崎賢治君	ラサル石井君
				横沢 高德君	山本 太郎君
				古賀 千景君	鬼木 誠君
				田島麻衣子君	石垣のりこ君
				古賀 之土君	吉田 忠智君
				石橋 通宏君	森本 真治君

岡田 直樹君	松山 政司君	山谷えり子君	高良 沙哉君	伊波 洋一君	福山 守君
				鈴木 大地君	泉 房穂君
				かまやち敏君	三上 えり君
				小川 克巳君	山田 太郎君
				藤木 真也君	熊谷 裕人君
				上野 通子君	古川 俊治君
				松下 新平君	浅尾慶一郎君
				小西 洋之君	櫻井 充君
				森 ゆうこ君	中曾根弘文君
				奥田ふみよ君	福士 珠美君
				小島とも子君	大島九州男君
				村田 亨子君	高木 真理君
				柴 慎一君	塩村あやか君
				岸 真紀子君	木戸口英司君
				杉尾 秀哉君	小沢 雅仁君
				勝部 賢志君	広田 一君

徳永 エリ君	水岡 俊一君	吉川 沙織君	青木 愛君	辻元 清美君	長浜 博行君
				佐々木りえ君	石 平君
				石井めぐみ君	松野 明美君
				羽田 次郎君	嘉田由紀子君
				打越さく良君	高木かおり君
				松沢 成文君	猪瀬 直樹君
				天晶 大輔君	

内閣総理大臣	総務大臣	法務大臣	外務大臣	財務大臣	国務大臣
高市 早苗君	林 芳正君	平口 洋君	茂木 敏充君	片山さつき君	
				松本 洋平君	上野賢一郎君
				鈴木 憲和君	
				赤澤 亮正君	
				金子 恭之君	
				石原 宏高君	

防衛大臣 (内閣官房長官)	小泉進次郎君	議長の報告事項 去る二十一日次の情報監視審査会委員は、参議院情報監視審査会規程第四条第一項により宣誓した。	国務大臣 (デジタル大臣)	松本 尚君	国務大臣 (復興大臣)	牧野たかお君	国務大臣 (国家公安委員会委員長)	あかま二郎君	国務大臣 (内閣府特命担当大臣(防災・海洋政策))	国務大臣 (内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策並びに消費及び食品安全、こども政策、少子化対策、若者活躍、男女共同参画、地方創生・共生・共助、アイヌ施策))	黄川田仁志君	国務大臣 (内閣府特命担当大臣(経済財政政策、規制改革))	城内 実君	国務大臣 (内閣府特命担当大臣(クルド、知的財産戦略、科学的技術政策、宇宙政策、経済安全保障))	小野田紀美君	議員派遣中の議員	藤井 一博君																		
国務大臣 (内閣府特命担当大臣(サイバー安全保障))	木原 稔君		宮沢 洋一君	石井 苗子君	森 ゆうこ君	同日議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	内閣委員	辞任	神谷 政幸君	西田 昌司君	石垣のりこ君	泉 房穂君	木戸口英司君	片山 大介君	総務委員	辞任	古賀 千景君	平木 大作君	法務委員	辞任	田島麻衣子君	谷合 正明君	松沢 成文君	外交防衛委員	辞任	加田 裕之君	塩村あやか君	長浜 博行君	ラサル石井君	宮崎 勝君	嘉田由紀子君	財政金融委員	辞任	磯崎 仁彦君	熊谷 裕人君
国務大臣 (内閣府特命担当大臣(サイバー安全保障))	木原 稔君		森 ゆうこ君	同日議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	内閣委員	補欠	酒井 庸行君	磯崎 仁彦君	杉尾 秀哉君	塩村あやか君	小島とも子君	岡崎 太君	補欠	木戸口英司君	宮崎 勝君	補欠	泉 房穂君	横山 信一君	嘉田由紀子君	補欠	若林 洋平君	青木 愛君	牧山ひろえ君	田島麻衣子君	平木 大作君	松沢 成文君	補欠	西田 昌司君	森 ゆうこ君						
国務大臣 (内閣府特命担当大臣(サイバー安全保障))	木原 稔君		森 ゆうこ君	同日議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	内閣委員	補欠	酒井 庸行君	磯崎 仁彦君	杉尾 秀哉君	塩村あやか君	小島とも子君	岡崎 太君	補欠	木戸口英司君	宮崎 勝君	補欠	泉 房穂君	横山 信一君	嘉田由紀子君	補欠	若林 洋平君	青木 愛君	牧山ひろえ君	田島麻衣子君	平木 大作君	松沢 成文君	補欠	西田 昌司君	森 ゆうこ君						
国務大臣 (内閣府特命担当大臣(サイバー安全保障))	木原 稔君		森 ゆうこ君	同日議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	内閣委員	補欠	酒井 庸行君	磯崎 仁彦君	杉尾 秀哉君	塩村あやか君	小島とも子君	岡崎 太君	補欠	木戸口英司君	宮崎 勝君	補欠	泉 房穂君	横山 信一君	嘉田由紀子君	補欠	若林 洋平君	青木 愛君	牧山ひろえ君	田島麻衣子君	平木 大作君	松沢 成文君	補欠	西田 昌司君	森 ゆうこ君						
国務大臣 (内閣府特命担当大臣(サイバー安全保障))	木原 稔君		森 ゆうこ君	同日議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	内閣委員	補欠	酒井 庸行君	磯崎 仁彦君	杉尾 秀哉君	塩村あやか君	小島とも子君	岡崎 太君	補欠	木戸口英司君	宮崎 勝君	補欠	泉 房穂君	横山 信一君	嘉田由紀子君	補欠	若林 洋平君	青木 愛君	牧山ひろえ君	田島麻衣子君	平木 大作君	松沢 成文君	補欠	西田 昌司君	森 ゆうこ君						
国務大臣 (内閣府特命担当大臣(サイバー安全保障))	木原 稔君		森 ゆうこ君	同日議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	内閣委員	補欠	酒井 庸行君	磯崎 仁彦君	杉尾 秀哉君	塩村あやか君	小島とも子君	岡崎 太君	補欠	木戸口英司君	宮崎 勝君	補欠	泉 房穂君	横山 信一君	嘉田由紀子君	補欠	若林 洋平君	青木 愛君	牧山ひろえ君	田島麻衣子君	平木 大作君	松沢 成文君	補欠	西田 昌司君	森 ゆうこ君						
国務大臣 (内閣府特命担当大臣(サイバー安全保障))	木原 稔君		森 ゆうこ君	同日議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	内閣委員	補欠	酒井 庸行君	磯崎 仁彦君	杉尾 秀哉君	塩村あやか君	小島とも子君	岡崎 太君	補欠	木戸口英司君	宮崎 勝君	補欠	泉 房穂君	横山 信一君	嘉田由紀子君	補欠	若林 洋平君	青木 愛君	牧山ひろえ君	田島麻衣子君	平木 大作君	松沢 成文君	補欠	西田 昌司君	森 ゆうこ君						
国務大臣 (内閣府特命担当大臣(サイバー安全保障))	木原 稔君		森 ゆうこ君	同日議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	内閣委員	補欠	酒井 庸行君	磯崎 仁彦君	杉尾 秀哉君	塩村あやか君	小島とも子君	岡崎 太君	補欠	木戸口英司君	宮崎 勝君	補欠	泉 房穂君	横山 信一君	嘉田由紀子君	補欠	若林 洋平君	青木 愛君	牧山ひろえ君	田島麻衣子君	平木 大作君	松沢 成文君	補欠	西田 昌司君	森 ゆうこ君						
国務大臣 (内閣府特命担当大臣(サイバー安全保障))	木原 稔君		森 ゆうこ君	同日議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	内閣委員	補欠	酒井 庸行君	磯崎 仁彦君	杉尾 秀哉君	塩村あやか君	小島とも子君	岡崎 太君	補欠	木戸口英司君	宮崎 勝君	補欠	泉 房穂君	横山 信一君	嘉田由紀子君	補欠	若林 洋平君	青木 愛君	牧山ひろえ君	田島麻衣子君	平木 大作君	松沢 成文君	補欠	西田 昌司君	森 ゆうこ君						
国務大臣 (内閣府特命担当大臣(サイバー安全保障))	木原 稔君	森 ゆうこ君	同日議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	内閣委員	補欠	酒井 庸行君	磯崎 仁彦君	杉尾 秀哉君	塩村あやか君	小島とも子君	岡崎 太君	補欠	木戸口英司君	宮崎 勝君	補欠	泉 房穂君	横山 信一君	嘉田由紀子君	補欠	若林 洋平君	青木 愛君	牧山ひろえ君	田島麻衣子君	平木 大作君	松沢 成文君	補欠	西田 昌司君	森 ゆうこ君							

行政監視委員	補欠	同日特別委員会において選任した委員長は次のとおりである。	災害対策及び東日本大震災復興特別委員会	消費者問題に関する特別委員会
補欠	加田 裕之君	委員長 下野 六太君	理事 石井 浩郎君	理事 加藤 明良君
自見はなこ君	小川 克巳君	委員長 横沢 高徳君	理事 星 北斗君	理事 長谷川英晴君
永井 学君	田島麻衣子君	委員長 櫻井 充君	理事 森 まさこ君	理事 村田 享子君
石垣のりこ君	山内佳菜子君	委員長 福岡 資麿君	理事 小沢 雅仁君	理事 浜野 喜史君
鬼木 誠君	泉 房穂君	委員長 古川 俊治君	理事 伊藤 辰夫君	理事 石井 浩郎君
岸 真紀子君	古賀 千景君	委員長 松本 眞治君	理事 佐々木雅文君	理事 三原じゅん子君
木戸口英司君	古賀 珠美君	委員長 松沢 成文君	理事 今井絵理子君	理事 高木 真理君
塩村あやか君	古賀 之土君	委員長 舟山 康江君	理事 自見はなこ君	理事 小林さやか君
福島みずほ君	金子 道仁君	委員長 古山 俊治君	理事 徳永 エリ君	理事 藤井 一博君
石井 苗子君	猪瀬 直樹君	委員長 古川 俊治君	理事 山田 吉彦君	理事 吉井 章君
新実 彰平君	猪瀬 直樹君	委員長 古川 俊治君	理事 阿達 雅志君	理事 塩村あやか君
議院運営委員	補欠	委員長 松本 眞治君	理事 中西 祐介君	理事 原田 秀一君
補欠	勝部 賢志君	委員長 松本 眞治君	理事 藤井 一博君	理事 窪田 哲也君
熊谷 裕人君	鬼木 誠君	委員長 松沢 成文君	理事 小西 洋之君	理事 石井 苗子君
森本 眞治君	磯崎 哲史君	委員長 松沢 成文君	理事 竹詰 仁君	理事 大津 力君
浜野 喜史君	磯崎 哲史君	委員長 松沢 成文君	理事 石川 博崇君	理事 国民生活・経済に関する調査会
青島 健太君	岡崎 太君	委員長 松沢 成文君	理事 柴田 巧君	理事 小林 一大君
懲罰委員	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 小林 一大君	理事 山本佐知子君
補欠	牧山ひろえ君	委員長 松沢 成文君	理事 山田 太郎君	理事 柴 慎一君
森 ゆうこ君	蓮 舫君	委員長 松沢 成文君	理事 打越さく良君	理事 水野 孝一君
吉田 忠智君	上田 清司君	委員長 松沢 成文君	理事 川合 孝典君	理事 宮崎 勝君
磯崎 哲史君	上田 清司君	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	理事 中条きよし君
同日議長において、次のとおり憲法審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	理事 宮出 千慧君
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	理事 青山 繁晴君
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	理事 赤松 健君
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	理事 鬼木 誠君
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	理事 奥村 祥大君
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	理事 竹内 真二君
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	理事 松野 明美君
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	理事 後藤 翔太君
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	同日情報監視審査会において選任した会長は次のとおりである。
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	同日情報監視審査会において選任した会長は次のとおりである。
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	同日情報監視審査会において選任した会長は次のとおりである。
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	同日情報監視審査会において選任した会長は次のとおりである。
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	同日情報監視審査会において選任した会長は次のとおりである。
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	同日情報監視審査会において選任した会長は次のとおりである。
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	同日情報監視審査会において選任した会長は次のとおりである。
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	同日情報監視審査会において選任した会長は次のとおりである。
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	同日情報監視審査会において選任した会長は次のとおりである。
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	同日情報監視審査会において選任した会長は次のとおりである。
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	同日情報監視審査会において選任した会長は次のとおりである。
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	同日情報監視審査会において選任した会長は次のとおりである。
同日議長において、次のとおり政治倫理審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。	補欠	委員長 松沢 成文君	理事 石田 昌宏君	同日情報監視審査会において選任した会長は次のとおりである。



<p>同日本院は、第二百十九回国会の会期を五十八日間と議決した旨衆議院及び内閣に通知した。</p> <p>同日衆議院から、同院は第二百十九回国会の会期を五十八日間と議決した旨の通知書を受領した。</p> <p>同日本院は衆議院議員高市早苗君を内閣総理大臣に指名した旨衆議院に通知した。</p> <p>同日衆議院から、同院は衆議院議員高市早苗君を内閣総理大臣に指名した旨の通知書を受領した。</p> <p>同日議員から次の議案が提出された。</p> <p>所得税法の一部を改正する法律案（浜口誠君外一名発議（参第一号）</p> <p>地方税法の一部を改正する法律案（浜口誠君外一名発議（参第二号）</p> <p>同日内閣から次の通知書を受領した。</p> <p>令和七年十月二十一日</p> <p>内閣総理大臣 高市 早苗</p> <p>参議院議長 関口 昌一殿</p> <p>第二百十七回国会に、前内閣総理大臣から衆議院に提出し、同院において継続審査中の内閣提出議案については、同院議長に対し別紙のとおり申出をいたしましたから、御了承願います。</p> <p>別紙</p> <p>令和七年十月二十一日</p> <p>内閣総理大臣 高市 早苗</p> <p>衆議院議長 額賀福志郎殿</p> <p>第二百十七回国会に、前内閣総理大臣から提出し、貴院において継続審査中の左記議案は、その審議を進められるようお願い計らい願います。</p> <p>記</p> <p>◎第二百十七回国会に提出し、継続審査中のもの</p> <p>○法律案</p> <p>一、医療法等の一部を改正する法律案</p>	<p>○承諾を求める件</p> <p>一、令和六年度一般会計原油価格・物価高騰対策及び賃上げ促進環境整備対応予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書（その一）</p> <p>一、令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書（その一）</p> <p>一、令和六年度一般会計予備費使用総調書及び各省各庁所管使用調書（その二）</p> <p>同日議員から次の質問主意書が提出された。</p> <p>奨学金返還に係る負担軽減策に関する質問主意書（塩村あやか君提出）（第一号）</p> <p>痛くない乳がん検診に関する質問主意書（塩村あやか君提出）（第二号）</p> <p>物価高対策としてのエネルギー自給率向上及び産業基盤強化等の必要性に関する質問主意書（塩村あやか君提出）（第三号）</p> <p>匿名・流動型犯罪グループに関する質問主意書（塩村あやか君提出）（第四号）</p> <p>地方公共団体による介護職員の直接採用に関する質問主意書（塩村あやか君提出）（第五号）</p> <p>マンシヨンの管理適正化に関する質問主意書（塩村あやか君提出）（第六号）</p> <p>トランプ関税交渉におけるボーイング機大量購入に関する質問主意書（山本太郎君提出）（第七号）</p> <p>日本各地における再エネ開発への反対運動及び戦略的環境アセスメントの法制化に関する質問主意書（山本太郎君提出）（第八号）</p> <p>奨学金受給者の生活実態調査及び奨学金返還負担と少子化との関係に関する質問主意書（山本太郎君提出）（第九号）</p> <p>風水害等による被災住宅の応急修理費支給拡充等に関する質問主意書（山本太郎君提出）（第一〇号）</p>	<p>米価格高騰及び米の増産に関する質問主意書（山本太郎君提出）（第一一号）</p> <p>医師の応招義務及び不法滞在の外国人の医療費支払等に関する質問主意書（百田尚樹君提出）（第二二号）</p> <p>大阪・関西万博の海外バビリオン建設工事代金未払企業を二〇二七年国際園芸博覧会の「GX House サプライヤー」に認定していることに関する質問主意書（石垣のりこ君提出）（第二三号）</p> <p>麻薬取締部における捜査情報の漏えいに関する質問主意書（石垣のりこ君提出）（第一四号）</p> <p>物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用したポイント還元・付与事業が物価上昇につながる懸念に関する質問主意書（石垣のりこ君提出）（第一五号）</p> <p>同日衆議院議長から、国会は衆議院議員高市早苗君を内閣総理大臣に指名したことを奏上した旨の通知書を受領した。</p> <p>一昨二十二日議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。</p> <p>予算委員</p> <p>辞任 進藤金日子君 補欠 阿達 雅志君</p> <p>行政監視委員</p> <p>辞任 初鹿野裕樹君 補欠 力君</p> <p>議院運営委員</p> <p>辞任 こやり隆史君 補欠 進藤金日子君</p> <p>星 北斗君 補欠 白井 正一君</p> <p>牧野たかお君 補欠 青木 一彦君</p> <p>大津 力君 補欠 初鹿野裕樹君</p>	<p>同日議長において、次のとおり特別委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。</p> <p>デジタル社会の形成及び人工知能の活用等に関する特別委員</p> <p>辞任 友納 理緒君 補欠 こやり隆史君</p> <p>同日議長において、次のとおり調査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。</p> <p>資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会委員</p> <p>辞任 青山 繁晴君 補欠 こやり隆史君</p> <p>同日議員から次の質問主意書が提出された。</p> <p>消費減税の実施に関する質問主意書（山本太郎君提出）（第一六号）</p> <p>ミャンマー国民和解の枠組みにおける日本政府の基本姿勢に関する質問主意書（伊勢崎賢治君提出）（第一七号）</p> <p>昨二十三日議長において、次のとおり特別委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。</p> <p>デジタル社会の形成及び人工知能の活用等に関する特別委員</p> <p>辞任 こやり隆史君 補欠 友納 理緒君</p> <p>同日議長において、次のとおり調査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。</p> <p>資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会委員</p> <p>辞任 こやり隆史君 補欠 青山 繁晴君</p> <p>同日議長は、次の議員提出案を予備審査のため衆議院に送付した。</p> <p>所得税法の一部を改正する法律案（浜口誠君外一名発議）</p> <p>地方税法の一部を改正する法律案（浜口誠君外一名発議）</p>
--	---	--	--

〔参照〕  
十月二十三日議長において、左のとおり議席を  
変更した。

六六 若林 洋平君  
六八 永井 学君  
六九 山本 啓介君  
七一 神谷 政幸君  
七五 若井 敦子君  
七七 古庄 玄知君  
七八 長谷川 英晴君  
七九 藤井 一博君  
八一 小林 一大君  
八二 加藤 明良君  
八三 生稲 晃子君  
八四 宮本 周司君  
八五 阿達 雅志君  
八六 山田 宏君  
八七 井上 義行君  
八八 滝波 宏文君  
八九 上月 良祐君  
九〇 北村 経夫君  
九一 三原じゅん子君  
九二 堀井 巖君  
九三 舞立 昇治君  
九四 山下 雄平君  
九五 青山 繁晴君  
九六 松村 祥史君  
九七 古賀友一郎君  
九八 酒井 庸行君  
九九 佐藤 啓君  
一〇〇 小野田紀美君  
一〇一 牧野たかお君  
一〇二 片山さつき君  
一〇三 梶原 大介君  
一〇四 越智 俊之君  
一〇五 高橋はるみ君  
一〇六 東野 秀樹君  
一〇七 西田 英範君

一一八 星 北斗君  
一一九 山本佐知子君  
一二〇 吉井 章君  
一二一 齊藤健一郎君  
一二二 赤松 健君  
一二三 白井 正一君  
一二四 本田 顕子君  
一二六 朝日健太郎君  
一二七 進藤金日子君  
一二八 今井絵理子君  
一二九 こやり隆史君  
一三〇 石田 昌宏君  
一三一 藤川 政人君  
一三二 長谷川 岳君  
一三三 青木 一彦君  
一三六 清水 真人君  
一五二 福山 守君  
一五三 脇 雅昭君  
一五四 鈴木 大地君  
一五五 小林孝一郎君  
一五六 いんどう周作君  
一五八 かまやち敏君  
一五九 見坂 茂範君  
一六〇 小川 克巳君  
一六三 船橋 利実君  
一六四 山田 太郎君  
一六五 自見はなこ君  
一六六 藤木 眞也君  
一六七 松川 るい君  
一六八 大家 敏志君  
一七〇 上野 通子君  
一七一 森 まさこ君  
一七二 古川 俊治君  
一七三 猪口 邦子君  
一七四 松下 新平君  
一七五 福岡 資麿君  
一七六 浅尾慶一郎君  
一七七 西田 昌司君